

【二】次の文章は、歌人の俵万智さんが、日本の古典である「伊勢物語」を取り上げて書いた文章です。文中の惟喬の親王は、天皇の皇子で、馬頭は、「伊勢物語」の主人公とされる、歌人在原業平を指しています。この文章を読んで、後の問いに答えなさい。

前段に続いて、第八十三段も、惟喬の親王と馬頭である男との交遊が描かれている。水無瀬にある離宮へ、親王は馬頭をお供にしたがえて、よく狩におでかけになった。

春の終わりごろ、何日も水無瀬に滞在して、都へ帰ってきたときの話。しばらくぶりの都、馬頭はなんだかそわそわしている。「刻も早くおいとましたい、という様子である。(1)、逢いたい女性がいるのだろうか。」

そのことにピンときたのか、こないのか、親王はなかなか馬頭をお帰しにならない。

「何日も、苦労だったね。さあ酒とほうびの品をプレゼントしよう。ゆつくりくつろいでおくれ」

そわそわに拍車のかかる馬頭。(2)、「実は彼女が待っていますので、今日はこのへんで……」とも言にくい。そこで歌に託して、さりげなく気持ちを伝える。

A 枕とて草ひき結ぶこともせじ秋の夜とだに頼まれなくに

枕として草を結びあわせる、つまり草枕を作つてここで旅寝を(A)、というのが上の句の意。秋の夜ならば、まだ夜長をあてにもできましようが、今宵は春の短夜……恋人たちには、あつというまに時は過ぎてしまいます……と、下の句では、いとまを乞うている。

こういうシャレた歌で、風流ないとま乞いをするものだから、よけい親王は彼を放したくなくなったのかもしれない。とうとうその日は、おやすみにならないで、夜を明かされてしまった。(3)、馬頭もおつきあい。

「トホホ……」という彼の顔が、思い浮かぶ場面である。けれどその顔は、本気で親王を恨んでいるわけではない。

ほんとうに親しい間柄だからこそ、親王のほうもこういう茶目つ気のある意地悪が、できるのだ。意地悪というより、イタズラという感じかもしれない。

「おいおい、私をほつといてデートかい？それはないよ。よし、今夜は帰さないぞつと」

困つたなア、と思いつながらも、ここで杯をうけなきや男じゃないぜ、という感じで、馬頭も飲んでいたのである。もちろん、身分の上から考えても、この場面で馬頭が頑なにジタイすることはできない。が、親王はケンリヨクをカサにきてそういうことを言っているわけではないし、二人の間には、上下関係を越えた(4)というものが感じられる。

このように、仕える者と仕えられる者の関係というよりは、気心の知れた男同士のつきあいが、二人の間では続いていた。

ところが、思いがけないことに、あるとき親王は、出家してしまわれた。一説には、皇位への望みがなくなったからとも言う。

宮中でお仕えることはなくなつてしまった馬頭ではあるが、正月に、年始のあいさつをと思いたち訪ねて行った。

京都の北のほうの小野というところに、親王はひっそりと暮らしておられる。比叡山のふもとなので、雪の量は大変なものだ。歩きにくいなか、やつとの思いで馬頭が参上してみると、親王はこれといってすることもない様子で、とても寂しそうにしておられた。胸のしめつけられるようなシーンである。

あの快活な親王さまが……。いったい何があつて、この世をむなしいものとして、捨ててしまわれたのか。馬頭はもちろんだろうが、読者の私たちも、心をおしはかりかね、悲しい気持ちになつてしまう。

やや長い時間ご一緒に、昔のことなどを思い出して、馬頭はお話し申しあげた。その思い出話のなかにはきつと、八十二段に書かれていた交野へ花見に行った日のことや、この段前半の「親王が恋人のところへ行かせてくれなかつた」エピソードなどが、入っていたことだろう。楽しい思い出は、ときとして現在の寂しさを、際立たせてしまう。このままずっとおそばにいてさしあげたい、と馬頭は思うのだが、いろいろと公務があつて、そういうわけにもいかない。夕暮には、もう帰らねばならない彼は、歌を一首詠む。

B 忘れては夢かとぞおもふ思ひきや雪ふみわけて君を見むとは⁽⁵⁾

現実であるということ忘れては、これは夢ではない^fだろうかと思えます。雪を踏みわけて、わが君にお目にかかろうとは、かつて思いも
しませんでした……。

そして涙しながら、帰途につく馬頭。八十三段は、なんとも寂しいケツマツだ⁽⁵⁾。この寂しさは、やはり前半の話があるために、よけいじー
んとくる。また、後半^gの話が加わることによって、前半がより生きているという点も見逃せ^hない。物語の構成の鮮やかさが、印象的な章段
である。

(俵万智「恋する伊勢物語」より)

注 短夜：夏の短い夜

水無瀬：大阪府北東部の水無瀬川と淀川の合流点付近

離宮：天皇家の別荘

おいとまする：尊いひとの所から去る

杯を受ける：相手の杯を受け、つがれた酒を飲む。

快活：気持ちが明るく元気が良いさま

問一 〓線①～⑤の漢字は読みを答え、カタカナは漢字に直しなさい。

問二 〓線a、bの言葉の意味をそれぞれ選び、記号で答えなさい。

a 拍車のかかる		b おしはかりかね	
ア	あきらめてしまう	ア	推量することができず
イ	進みが速くなる	イ	無理を通すことができず
ウ	苦しみが深まる	ウ	お伝えすることができず
エ	車をとめてしまう	エ	引きつけることができず

問三 (1)～(3)にあてはまる言葉を次から選び、記号で答えなさい。(記号は一度しか使えません。)

ア さて イ もちろん ウ つまり エ しかし オ たぶん

問四 (4)にあてはまる言葉を次から選び、記号で答えなさい。

ア 心情 イ 事情 ウ 友情 エ 実情

問五 (A)にあてはまる言葉を次から選び、記号で答えなさい。

ア するつもりです イ するつもりはございません ウ しなければならぬ エ するわけがありません

問六 □ a、b、f、hの「ない」と、□ c、d、e、gの「の」のうち、それぞれ使い方が他のものと異なるものを選び、記号で答えなさい。

問七 この文章を内容で二つに分けるとすると、どこで分かりますか。後半の最初の四字を抜き出して答えなさい。

問八 — 線(1)「今日はこのへんで……」に続く言葉は何でしょうか。「くします」に続くように文中から四字で抜き出して答えなさい。

問九 — 線(2)「そういうこと」は、何を指していますか。次から選んで記号で答えなさい。

- ア 今すぐ恋人のところへ行くこと イ 無理にお酒を飲まなくてもよいこと
ウ 恋人のところへ行かせないこと エ 主人の誘いは断れないということ

問十 — 線(3)「この世をむなしなものとして、捨ててしまわれた」とありますが、そのことを表した言葉を漢字二字で文中から抜き出しなさい。

問十一 — 線(4)「そういうわけにもいかない」とありますが、どういうことを言っているのですか。「親王」という言葉を使って、わかりやすく答えなさい。

問十二 Bの歌について次の問いに答えなさい。

a — 線(5)「君」とは誰を指していますか。文中から抜き出して答えなさい。

b この歌に使われている技巧を次から選んで、記号で答えなさい。

- ア 擬人法 イ 倒置法 ウ 体言止め エ 枕詞

【二】 次の詩と鑑賞文を読んで、後の問いに答えなさい。

おかあさんの声 小学二年 金子良子

おかあさんは、

でんわとか、おきやくさんが

くると

声がへんしんするように

すぐきれいな声にかかります。

なんで、

わたしとお兄さんと話すときは

おきやくさんみたいに

きれいな声になんないのかなあ。

わたしも

おかあさんのきれいな声と

お話したいなあ

自分もかつて子どもだったというイシキが、強く呼びさまされるかのような詩です。

素直なお母さんへの質問が書かれています。日ごろいっしょに暮らしているお母さんのちょっとした変化を、子どもの眼はしっかりと、とらえています。

このお母さんの「きれいな声」は、いつもの声とくらべてみても、とてもよそゆきで、ただどんだかきびきびとはつきりとした感じをもなっていて、「(A)」という一言からもわかるように、そこに憧れの念を抱いているようすもソウソウすることができま

この詩のおもしろさは、社会へのまなざしの芽生えが、家の外の誰かと接しているお母さんの姿を通して伝わってくるにありま

家の外には、社会というか世間というか家の中とは違う空気があつて、人と接するときには「(B)」しなくてはいけないんだ、という発見がきちんと描かれています。

「子ども」から「青年」へとやがては向かっていくカテイのはじまりといったらいいのでしょうか。その成長感覚を、ここに、(C)

読み取ることができるように思います。

最後は「なあ」という言葉で畳みかけるようにしてそこにこめてある願いのようなのが (D) 伝わってきます。

私がまず子どもの詩に心が動かされるのは「成長感覚」にあるようです。そしてまっすぐに前を見つめた「願い」や欲求にあると、この詩

を読んで感じるのです。

(和合亮一「詩の寺子屋」より)

問一 線①～⑤の漢字は読みを答え、カタカナは漢字に直しなさい。

問二 (A) (B) にあてはまる言葉を (A) は八字、(B) は四字で、詩の中から抜き出しなさい。

問三 (C) (D) にあてはまる言葉を次からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- | | | | | |
|---|---------|---------|---------|----------|
| C | ア ゆつくりと | イ すつきりと | ウ はつきりと | エ ぼんやりと |
| D | ア はげしく | イ うつくしく | ウ かなしく | エ ほほえましく |

問四 この文章では、次の文が抜けています。入るべきところの直後の三字を抜き出して答えなさい。(記号も字数に入ります。)

この視線は、とても大切なことへの目覚めです。

問五 線 a、b の言葉の主語をそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- | | | | | | | |
|---|---------|----------|-------|---------|------|---------|
| a | ア お母さんの | イ ちよつとした | ウ 変化を | エ 子どもの | オ 眼は | カ しつかりと |
| b | ア 芽生えが | イ 家の | ウ 誰かと | エ お母さんの | オ 姿を | カ 通して |

問六 線(1)の「そこにこめてある願い」はどんな願いですか。「と」という願い」に続くように答えなさい。

【三】 次の文学作品の作者を後から選び、記号で答えなさい。

- ① 坊っちゃん ② 方丈記 ③ 風立ちぬ ④ 羅生門 ⑤ 伊豆の踊子

- | | | | | | | | | | |
|---|------|---|------|---|-------|---|-----|---|------|
| ア | 清少納言 | イ | 夏目漱石 | ウ | 芥川龍之介 | エ | 堀辰雄 | オ | 正岡子規 |
| カ | 川端康成 | キ | 紫式部 | ク | 鴨長明 | | | | |

国 語 解 答

小計43点

二二 2点×5 問一 ① 一刻 ② 辞退 ③ 権力 ④ きごころ ⑤ 結末

2点×2 問二 a イ b ア

2点 問四 ウ 2点 問五 イ

2点 問七 ところが 2点 問八 おいとま します

2点 問九 ウ 2点 問十 出家

3点 問十一 (惟喬の)親王のおそばにいてさしあげるわけにはいかない

小計27点

2点×2 問十二 a (惟喬の)親王 b イ

二二 2点×5 問一 ① 意識 ② 想像 ③ めばえ ④ せけん ⑤ 過程

2点×2 問二 A お話ししたいなあ B へんしん

2点×2 問三 C ウ D エ 2点 問四 「子ども」

2点×2 問五 a オ b ア

3点 問六 おかあさんのきれいな声とお話したい という願い

小計10点

2点×5 三 ① イ ② ク ③ エ ④ ウ ⑤ カ

小計10点

2点×5 四 ① 病院 ② 単純 ③ 安全 ④ 展望 ⑤ 立場

小計10点

2点×5 五 ① 舌 ② 目 ③ 足 ④ 腹 ⑤ 首

【四】 次の語を日本語に直すところのようになりませんか。後から漢字を二字ずつ選び、組み合わせさせて熟語じよくごを作りなさい。

- ① クリニック ② シンプル ③ セキュリティー ④ ビジョン ⑤ スタンス

展 単 安 望 場 病 純 院 立 全

【五】 次の①～⑤の()に、からだに關係する漢字一字を入れて、慣用句を完成させなさい。

- ① () () を巻く (たいへん感心するようす)
- ② () () を丸くする (たいへんおどろいているようす)
- ③ () () を洗う (好ましくない仕事などをやめること)
- ④ () () を割る (本心を打ち明けること)
- ⑤ () () を長くする (期待して待っているようす)